



## 今週のPOINT

### 国内株式市場

---

日経平均はもみ合い相場へ

### 今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

---

日本動物高度医療センター【マザーズ 6039】ほか

### テーマ別分析

---

関心集めるレンタル・シェアオフィス

### 話題のレポート

---

最後の楽園アフリカ

### スクリーニング分析

---

好業績で値動きの良い中小型株に関心のタイミング

主力株は動意しにくい局面に

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	大成建設〈1801〉東証1部	9	
			オリエンタルランド〈4661〉東証1部	10	
			日本動物高度医療センター〈6039〉マザーズ	11	
			TDK〈6762〉東証1部	12	
			識学〈7049〉マザーズ	13	
			ゼンショーホールディングス〈7550〉東証1部	14	
			サイゼリヤ〈7581〉東証1部	15	
			アシックス〈7936〉東証1部	16	
			読者の気になる銘柄	ソフトバンクグループ〈9984〉東証1部	17
				資生堂〈4911〉東証1部	17
			テクニカル妙味銘柄	美津濃〈8022〉東証1部	18
				TOKAIホールディングス〈3167〉東証1部	18
4	カテゴリー考察	テーマ別分析		19	
		スクリーニング分析		20	
		先週の話題レポート		21	
		信用需給動向		22	
5	連載コラム			23	

## 日経平均はもみ合い相場へ

### ■日経平均は2週連続安、人民元相場が新たな火種に

前週の日経平均は2週連続の下落となった。新たな対中関税の発表から4日続落となったNYダウを受けて、週初5日の日経平均は21000円を割り込んで始まった。その後は中国経済の減速懸念から、約11年ぶりの水準に人民元相場が下落したことが嫌気され、日経平均は一時572.97円安まで下げ幅を広げた。日銀のETF(上場投資信託)買いもあり引けにかけては下げ幅を縮めたものの、戻りは限定的だった。5日の米国市場では、人民元安へのトランプ大統領による為替操作非難がネガティブリスクとして新たに浮上し、NYダウは今年最大の下げ幅となる前日比767.27ドル安と急落した。朝方に米財務省が中国を為替操作国に認定と伝わった6日の東京市場では、円相場が一時1ドル=105円台半ばに急伸したことを嫌気して、日経平均は前日比609.53円安の20110.76円まで下げた。その後、人民元の基準値が市場予想より高めに設定され、円相場も円高から反転したため、日経平均は引けにかけて下げ渋る展開となった。6日のNYダウは、中国人民銀行(中央銀行)が為替操作を否定し、人民元の基準値を予想より元高に設定したことを受けて6日ぶりに反発した。しかし、7日の日経平均は4日続落となった。人民元の基準値が前日よりドル高・元安水準に決まったことや、円高の進行が嫌気された。8日の日経平均は5日ぶりの反発に転じた。一時マイナスに転じる場面もあったが、人民元の基準値がやはり予想より元高水準に設定され、半導体関連や電子部品株が買い直されたほか、前日に決算を発表したソフトバンクG(9984)が買い先行で始まったことが好感された。中国の7月貿易収支で輸出が予想外に増加し、主要国の長期金利低下が一服したことを受け、8日のNYダウは371.12ドル高と反発。この流れを好感して9日の日経平均は続伸となった。朝方発表された4-6月期GDP(国内総生産)速報値が市場予想を上回ったことも相場の下支えとなった。また、通信キャリアのソフトバンク(9434)が、昨年12月の上場後に初めて公開価格を上回ったことも話題となった。なお、9日はSQ(特別清算指数)算出日にあたり、日経平均オプション8月限のSQ値は20855.99円だった。

### ■日米貿易交渉の進展に期待

今週の日経平均は陰の極を脱してもみ合いに転じることが期待される。日経平均は9日にかけて続伸したものの、7日までの4日続落の下げ幅1024.43円の20%も戻っていない。通商問題を巡る米中の応酬によって、世界経済減速への懸念と懸念後退が交互にやってくる。今後もこの流れは継続しよう。そこに米財務省による中国の為替操作国認定に伴い人民元動向が新たなネガティブ要因に加わった。目先は一巡したものの、各国中央銀行の相次ぐ利下げも懸念材料だ。14日に中国の7月小売売上高、15日には米国の7月小売売上高と主要経済指標の発表が予定されており、薄商いのなかを先物取引に大きく揺さぶられる懸念もある。このように懸念材料が多いなか、日米貿易交渉についてノイズが聞こえてこないことはプラス要素だ。事務レベルの協議が13日、14日とワシントンで開かれることが9日に決まった。閣僚協議は8月中旬に予定されているが、24日からはG7サミット(先進7カ国首脳会議)が控えていることもあり、協議の進展は安心材料の1つではある。

### ■決算一巡で次第に手掛かり難へ

一方、カレンダー的には3連休明けの4営業日取引の週となるうえ、一般にも「盆休み」ムードが支配的な週である。13日、14日の決算発表は大型株がほぼ一巡しており、中小型株が主体となる。15日からの週後半は企業サイドからの発表も限られてくることから、手掛かり難の展開となることが予想されよう。テクニカル的に、日経平均は9日のリバウンドで5日移動平均線を7月30日以来上回った。5日線水準を回復してきたことで、一気に20000円の大口割れの懸念が後退しているとみられる。

### ■日米貿易協議、米7月消費者物価、中国7月小売売上高

主な国内経済関連スケジュールは、12日は振替休日で東京市場が休場、13日に7月国内企業物価指数、6月第三次産業活動指数、日米貿易協議事務レベル会合(14日まで、ワシントン)、14日に6月機械受注、決算発表一巡が予定されている。一方、米国など海外経済関連の主要スケジュールは、12日に米7月財政収支、13日に米7月消費者物価、14日に中国7月都市部固定資産投資、中国7月工業生産、中国7月小売売上高、ユーロ圏4-6月期GDP、米7月輸出入物価、15日に米8月NY連銀製造業景気指数、米8月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、米7月小売売上高、米7月鉱工業生産・設備稼働率、米8月NAHB住宅市場指数、米6月企業在庫、16日に米7月住宅着工件数、米7月建設許可件数が予定されている。

## 中小型株の見直しに期待も売買低調か、IPO は休止期間入り

### ■懸念根強いが、相場の底堅さに一定の安心感も

今週の新興市場では、マザーズ指数が値を戻す場面も出てきそう。通商問題を巡る米中の応酬が続き、個人投資家の懸念は依然として強く、株式相場の先高観が高まっているとは言えない。一方で日経平均やドル・円相場は下値の堅さも見せており、一定の安心感につながる可能性がある。主要企業の決算発表がおおむね一巡し、再び投資家の関心が中小型株に向かいやすい点も追い風。成長期待の高い中小型株にはしっかりした買いが入っている印象を受ける。ただ、お盆休み期間となるため商いは細りやすいだろう。

今週は、8月13日にオイシックス・ラ・大地<3182>、FFRI<3692>、ラクス<3923>、ユーザベース<3966>、ソーせいグループ<4565>、14日にメドピア<6095>、フェローテックHD<6890>、日本ホスピスHD<7061>、プレジジョン・システム・サイエンス<7707>、サイバーダイナミクス<7779>、16日に総医研HD<2385>などが決算発表を予定している。メドピアなどは前四半期まで業績好調。ラクスや日本ホスピスも成長期待が高いが、ラクスは投資を強化する方針を示している。

### ■PBシステムズ上場発表も、1カ月のIPO休止期間

IPO関連では、ピー・ビーシステムズ<4447>（9月12日、福証Q-Board）の新規上場が発表されている。ただ、およそ1カ月のIPO休止期間となる。目先は決算を手掛かりとした物色を中心となるだろうが、この期間中に直近IPO銘柄の見直しの動きが出てくることも想定される。

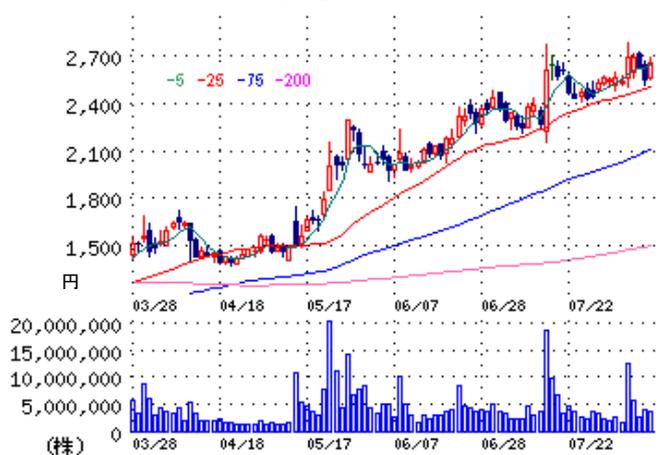
マザーズ指数



ラクス<3923>



ソーせいグループ<4565>





## 米中貿易摩擦を注視

### ■先週の動き

週初は、中国が国有企業に米農産物輸入停止を要請したと伝わったほか、人民元が対ドルで一時 11 年ぶりの水準にまで下落した。トランプ大統領が為替操作と非難し、ダウ、ナスダック総合指数、S&P500 は 2 ヶ月前の株価水準まで大幅下落した。週半ばに入り、中国人民銀行が為替操作を否定、人民元売買の基準値を元高に設定したことから米中貿易摩擦の懸念がやや後退したものの、米中対立の長期化を受け、ニュージーランドやタイ、インドの中央銀行が相次いで利下げを実施するなど、世界経済の鈍化懸念が広がった。週末にかけて、中国の 7 月貿易収支で輸出が予想外に増加し、世界経済減速への懸念が緩和したほか、主要国での長期金利低下が一服したことから投資家心理が改善し反発に転じた。しかし、中国が米農産物輸入停止を要請したことへの対抗措置として、トランプ政権が同国通信機器メーカーの華為技術(ファーウェイ)との取引再開許可を先送りしていることが伝わった。また、トランプ大統領が 9 月に予定される米中首脳会談が中止となる可能性を示唆し、米中対立の長期化懸念から伸び悩んだ。結局、週を通じて主要株価は下落した。

米中貿易摩擦の深刻化により、マイクロン・テクノロジーやエヌビディアなど半導体セクターが軒並み下落。食品メーカーのディーン・フーズは、決算で赤字幅が予想より拡大し急落。エンターテインメントのウォルト・ディズニーは、決算内容が予想を下振れ軟調推移。食品会社のクラフト・ハイツは、決算内容が嫌気され大幅下落。一方で、決済ネットワークのマスターカードは、デンマークの決済会社が保有する決済プラットフォームを約 32 億ドルで買収し堅調推移。薬剤給付管理会社の CVS ヘルスは、決算内容が好感され上昇。ストーリーミング端末のロクは、決算内容が市場予想を上振れ急騰。半導体のアドバンスド・マイクロ・デバイシズは、新たなサーバー向け半導体(CPU)の発売を発表し大幅上昇となった。

### ■今週の見通し

今週も、引き続き夏季休暇シーズンで閑散取引が予想される。今週は重要イベントなどが無く相場動意材料に乏しいが、米中貿易摩擦を巡って両国の応酬が続けば、市場参加者が少ないこともあり、相場の変動が大きくなりそうだ。

企業決算では、衣料品のタペストリー(13 日)、百貨店のメーシーズ(14 日)や JC ペニー(15 日)、小売最大のウォルマート(15 日)など小売各社の決算に加えて、ネットワーク機器メーカーのシスコ・システムズ(14 日)や、半導体製造装置のアプライド・マテリアルズ(15 日)、半導体のエヌビディア(15 日)、農業機械のディア(16 日)などの決算発表が予定されている。エヌビディアの決算では、米中貿易摩擦の長期化による業績への影響について、経営陣がどのように考えているのか注目が集まりそうだ。

9 日時点のファクトセット社の集計によると S&P500 構成銘柄の 90%が決算発表を終了し、75%が利益、57%が売上高のアナリスト予想平均を上回った。全体では、ヘルスケアや金融セクターが成長したものの、素材や資本財セクターで不振となり、0.7%の減益見通しとなった。下半期の企業決算について、アナリストは 7-9 月期は減益となる一方で、10-12 月期は 1 桁の利益成長を予想している。

経済指標では、7 月消費者物価指数(13 日)、7 月輸入物価指数(14 日)、8 月 NY 連銀製造業景気指数(15 日)、7 月小売売上高(15 日)、8 月 NAHB 住宅市場指数(15 日)、7 月住宅着工・建設許可件数(16 日)などが予定されている。消費者物価指数は今後の金融政策を占う重要な指標となるインフレ率に影響を与えるため、注目したい。

## 為替市場

米ドル・円 予想レンジ

104.50 円 ~ 107.00 円

今週のドル・円は弱含みか。目的的には人民元相場の動向を意識した取引が主体となりそう。各国中央銀行は金融緩和策を強化する姿勢を見せており、米連邦準備制度理事会(FRB)による9月大幅利下げに思惑が広がりやすい。米国経済指標が悪化した場合、リスク回避のドル売りが強まる見通し。トランプ米政権は中国を為替操作国に認定し、当面は日々の人民元を中心レートが注目される。ただ、中国政府は大規模な資本流出を招く恐れがあるとして、大幅な人民元安は回避したいとみられる。人民元相場がドル安・元高方向に向かえば市場の警戒感はやや和らぎ、リスク回避の円買いは弱まろう。

しかしながら、世界各国の中央銀行は緩和的な金融政策スタンスに傾いており、米FRBは9月の連邦公開市場委員会(FOMC)で0.50ポイントの大幅利下げに踏み切るとの観測が広がっている。ドル・円は105円台で国内勢を中心に押し目買いが入りやすいものの、トランプ大統領はFRBに対して金融緩和を呼びかけており、ドル高が製造業などに与える影響を懸念していることから、ドル・円は年初来安値の104円台が視野に入りそう。

### 【米・7月消費者物価指数(CPI)】(13日発表予定)

13日発表の7月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.7%、コア指数は前年比+2.1%とインフレ率は前回並みの水準が予想される。FRBによる9月大幅利下げが観測されるなか、物価上昇率が市場予想と一致すればドル売りはやや後退する見通し。

### 【米・7月小売売上高】(15日発表予定)

15日発表の7月小売売上高は前月比+0.2%と、6月の同+0.4%を下回る見通し。市場予想を下回った場合、個人消費減退の思惑が広がり、リスク回避的なドル売りがやや強まる可能性がある。

## 債券市場

債券先物予想レンジ

154.45 円 ~ 154.85 円

長期国債利回り予想レンジ

-0.222 % ~ -0.205 %

### ■先週の動き

先週の長期債利回りは一段と低下。米財務省は5日、中国を為替操作国に認定すると発表したことから、世界経済の先行き不透明感は一層強まり、世界的な金利低下の流れはしばらく続くとの見方が広がったことが要因。NZ、インド、タイの中央銀行が金利引き下げを決定し、欧米諸国では長期債利回りの低下が観測された。トランプ米大統領が金利低下の必要性を繰り返し唱えていることからドル・円相場が円高方向に振れたことも意識されたようだ。日経平均株価は2万円台を維持し、週後半の取引で下げ幅は縮小したものの、債券市場で目立った反応は観測されなかった。新発10年債利回りは、-0.220%近辺まで低下。新発20年債利回りは0.094%近辺、新発30年債利回りは0.215%近辺まで低下した。

債券先物9月限は堅調推移。153円98銭で取引を開始し、153円97銭まで下げた後、上げに転じた。9日の取引で154円74銭まで一段高となり、154円73銭でこの週の取引を終えた。

### ■今週の見通し

今週の債券市場では、長期金利の低下が一般すると予想される。利回りの絶対水準を重視する投資家は超長期債の残高を増やしており、20年債利回りは0.1%を下回った。ただし、利回り曲線の平坦化が急激に進んだことに対する警戒感が市場に広がっていること、日本銀行は長期ゾーン対象の国債買い入れオペを減額するとの見方が浮上していることから、10年債の利回り水準は下げ渋る可能性がある。債券利回りの平坦化を見込んだ超長期債の買いは一巡しつつあり、ドイツ、米国の債券利回りが反転した場合、国内債の利回り水準にも影響を及ぼす可能性がある。

債券先物9月限は主に154円台半ばで推移し、やや上げ渋る展開か。世界的な金利低下の流れが短期間で終息する可能性は低いものの、為替相場の円安反転や株高が続いた場合、安全逃避的な債券買いは縮小するとみられる。

## お盆休みシーズン入りで個人投資家主導の中小型株に関心向かう

先週の日経平均は週前半に売り込まれ、その後は週末にかけて下げ渋った。トランプ米大統領が新たな対中関税策を発表、中国では国有企業に米農産物輸入停止を要請したと伝わったほか、人民元が対ドルで一時 11 年ぶりの水準にまで下落するなど、米中対立激化による世界景気の減速懸念が先行した。その後は、シカゴ連銀総裁が追加利下げの必要性を示唆したほか、中国人民銀行が人民元売りの基準値を予想より元高に設定したことで、米中対立激化懸念が和らいだ。

個別では本格化する決算発表銘柄に関心が集中した。ポジティブ視されたものとしては、アシックス、ベネッセ、ソフトバンク、太陽誘電、SUBARU、サントリー食品、ワールド、スクエニHD、東海カーボン、ルネサス、資生堂、中小型でも、アリアケJ、JVCケンウッド、シュッピン、カゴメ、Jシステム、レーザーテック、UBICOM、ソースネクストなどが好感された。決算以外では、流通システム事業からの撤退を発表したサンデンが急伸、親会社からのTOBが伝わった青木あすなるも買われた。一方で、決算がネガティブ視されたものはシスメックス、ヤフー、神戸製鋼、ミネベアミツミ、NTT データ、日 CMK、浜松ホト、SUMCO、NISSHA、タカラトミー、スシロー、JXTG、IHI、丸井 G、アイスタイル、ネクソン、シチズン、ガンホー、富士フイルム、ダイフク、マイクロニクスなど。新生銀は大株主であるファンドの売却が伝わり需給懸念が強まった。ソフトバンクGは上振れ決算も好反応は乏しかった。

トランプ米大統領が 9 月に予定される米中首脳会談中止の可能性を示唆するなど、米中対立の長期化懸念が強まる状況となっている。リスクオフの円高も進行しており、ドル円相場は 105 円台前半にまで下落、日本株の外部環境は厳しい情勢となっている。こうしたなか、今週はお盆休みシーズンにも入るため、機関投資家の売買減少が見込まれよう。決算発表も大方一巡し、今週は国内外で大きなイベントも予定されていない。方向感の乏しい閑散相場が想定されるが、薄荷のなかでのダウンサイドリスクには注意が必要となる。

注目イベントとしては、国内では工作機械受注や機械受注の発表、海外では ZEW 景況感指数や GDP などドイツの経済指標、固定資産投資など中国の経済指標が挙げられる。また、米アプライドマテリアルズの決算は半導体関連株の動向を大きく左右するものとして注視すべきであろう。ほか、エヌビディアやソフトバンクGに影響を与えるアリババの決算にも注目。国内では個人投資家が売買の中心になるとみられ、中小型株色が幅を利かせよう。為替相場の影響が相対的に小さい内需株が多い点も魅力となる。その意味では、13 日の SOSEI の決算などはバイオ関連株への関心を高めさせる契機になるのか注目も。4-6 月期決算発表が一巡することで、好業績銘柄に新たにスポットが当たる場面もありそうだ。マクロ面では、米国の利下げ期待の再燃、中国のインフラ投資拡大期待などが高まるかが、相場の下支え要因として注目される。

### 先週動いた銘柄・セクター（東証 1 部・個別銘柄は他市場が優先市場のものを除く）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値 (円)	騰落率 (%)	コード	銘柄	終値 (円)	騰落率 (%)	上位セクター	騰落率 (%)
1865	青木あすなる建設	1,208.0	51.38	3659	ネクソン	1,257.0	-27.68	精密機器	1.40
3179	シュッピン	1,007.0	38.71	6871	日本マイクロニクス	761.0	-24.80	陸運業	1.27
7936	アシックス	1,541.0	36.86	3660	アイスタイル	600.0	-22.78	小売業	0.69
3836	アバント	2,327.0	24.91	7867	タカラトミー	1,059.0	-22.59	空運業	0.46
6800	ヨコオ	2,742.0	21.92	3978	マクロミル	1,001.0	-20.05	繊維業	-0.21
2120	LIFULL	590.0	21.65	6707	サンケン電気	1,755.0	-19.94	倉庫・運輸関連業	-0.41
4686	ジャストシステム	4,405.0	21.02	6615	ユー・エム・シー・エレクトロニクス	784.0	-18.84	その他製品	-0.43
9726	KNT-CTホールディングス	1,510.0	20.22	6869	シスメックス	6,448.0	-18.77	下位セクター	騰落率 (%)
6062	チャーム・ケア・コーポレーション	2,238.0	17.54	9702	アイ・エス・ビー	1,445.0	-18.08	石油・石炭製品	-8.24
7595	アルゴグラフィックス	2,878.0	17.52	6569	日総工業	1,161.0	-17.89	金属製品	-5.94
6284	日精エー・エス・ビー機械	3,045.0	17.34	3853	アステリア	801.0	-17.34	水産・農林業	-5.64
4331	テイクアンドギヴ・ニーズ	1,177.0	17.23	6839	船井電機	635.0	-17.10	海運業	-5.57
6235	オプトラン	3,065.0	16.98	6029	アトラ	238.0	-17.07	パルプ・紙	-4.49
9468	KADOKAWA	1,655.0	16.63	4514	あすか製薬	1,078.0	-17.01	ガラス・土石製品	-4.24
9684	スクウェア・エニックス・ホールディングス	4,275.0	16.33	7554	幸楽苑ホールディングス	2,550.0	-16.94	保険業	-3.52

## 3分の1戻し達成も、もみ合いの展開か

### ■25日線下降で下げ圧力残る

先週（8月5-9日）の日経平均は2週連続で下落した。1週間の下げ幅は402.34円と前週（570.99円）よりやや縮小した。

東証と大阪取引所の集計による投資部門別売買状況では、海外投資家は7月第5週（7月29日-8月2日）、現物・先物合計で2週ぶりに売り越した。金額は4342億円（前週2776億円の買い越し）に膨らんだ。現物も同様に2週ぶりに売り越しとなり、金額は2092億円（前週1203億円の買い越し）だった。

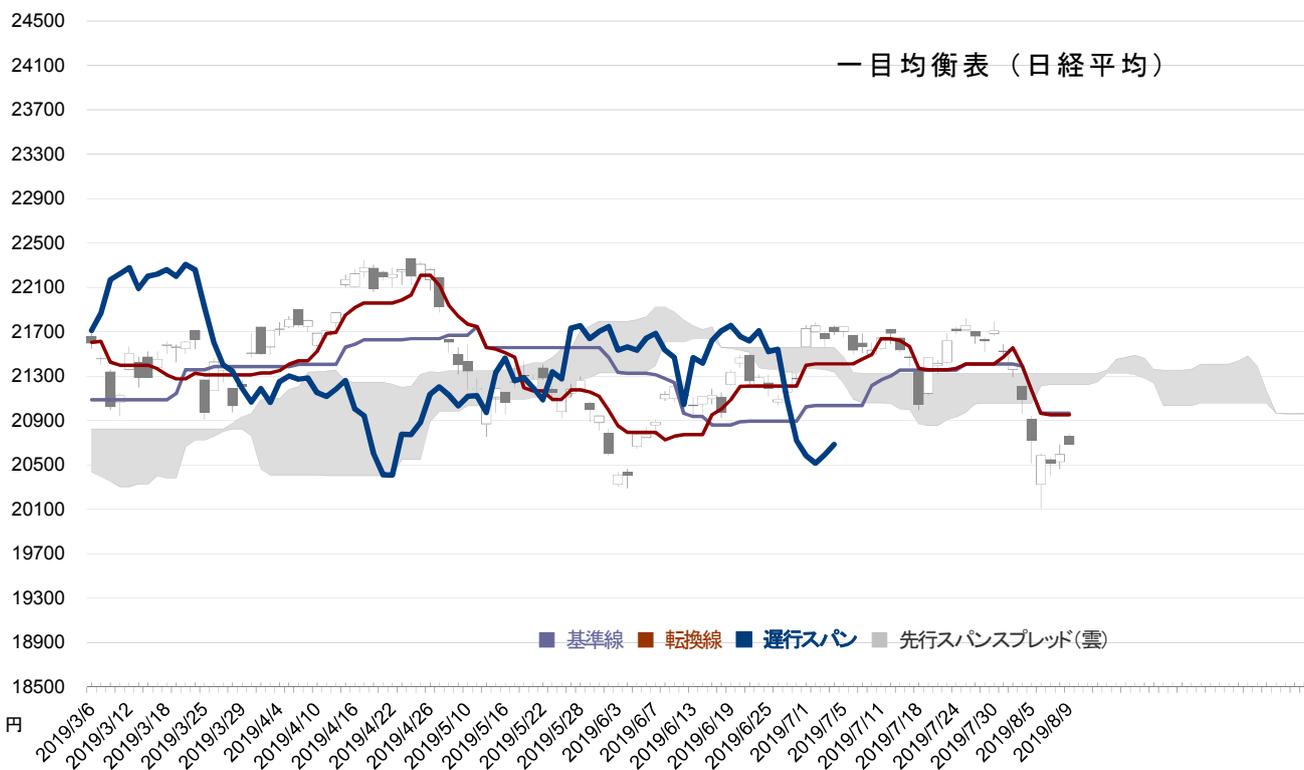
先週の日経平均は週初から下げ足が速く、6日は6月4日に付けた直近安値20289.64円を一時割り込んで前日比609.53円安の20110.76円まで押される場面があった。その後は、値戻しに向かったものの、先週末はともに下向きの25日移動平均線が200日線を下回るデッドクロスを形成するなどチャート形状の悪化が進んだ。

今週の日経平均はもみ合いが予想される。先週末終値は7月25日高値から8月6日安値までの下落幅の3分の1戻しに相当す

る20681.53円をわずかに上回ったほか、25日線との下方乖離率が3.15%まで縮小し、短期的な急落局面を脱した格好となっている。目先は6日安値までの下落幅の半値戻し20966.92円が上値目標として意識されよう。ただ、5日、25日、13週、26週線など主要な移動平均線は軒並み下降しているため、株価の下押し圧力は残り、6日安値を試す場面も想定しておきたい。

日足の一目均衡表では先週、株価が雲下で推移するとともに、運行線は弱気シグナル発生を継続し、売り手優位の相場となった。ただ、先週末にかけて基準線と転換線は横ばいを継続し、短期的な下げ一服を示唆している。

ボリンジャーバンドでは、5日終値が-3σを下回った後は反転し、9日は-2σと-1σの間付近まで戻して引けた。目先は中心線側へのシフトが期待されるが、-3σから+3σまでのバンドの間隔が先週から拡大しており、引き続き上下どちらの方向にも値幅が大きくなりやすいことには留意しておきたい。



## 大成建設〈1801〉東証1部

### セクター内での相対的な好業績に評価余地

#### ■セクター内では業績好調際立つ

5日の取引時間中に決算を発表、第1四半期営業利益は259億円で前年同期比69.5%増益、上半期計画は465億円で同3.1%の減益であり、想定以上の好進捗と捉えられる。大手ゼネコンでは清水建設〈1803〉も想定以上の好スタートになったが、受注高は前年同期比40.0%減と大幅に減少している。一方で、同社の受注高は同46.4%増と大幅に拡大しており、今後の業績失速懸念も乏しい。他の大手ゼネコンでは、大林組〈1802〉も受注が減少、鹿島〈1812〉は第1四半期が減益決算となっている。相対的な比較感から、セクター内では同社の選別物色の動きが今後も強まる見通しだ。

#### ■東京五輪後の失速懸念も後退へ

もともと、建設セクターには、東京五輪後の業界の失速懸念が強かったとみられる。ただ、足元の同社の受注好調からは、こうし

売買単位	100 株
8/9 終値	3730 円
目標株価	4180 円
業種	建設

た懸念も払しょくされてくる可能性がある。リスクオフに伴う為替相場での円高進行が加速化しつつあるなか、建設セクターは資金シフトの大きな受け皿となってくる公算も大きい。7月の戻り高値水準である4180円を目先の目標株価と設定したい。

#### ★リスク要因

25日線が抵抗線となる中で信用買残が重しにも。

#### 1801:日足

25日線突破なら下値もみ合いからの上放れ本格化へ。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/3連	1,545,889	-1.7%	117,468	117,703	58.1%	77,045	65.85
2017/3連	1,487,252	-3.8%	140,822	144,591	22.8%	90,566	78.57
2018/3連	1,585,497	6.6%	181,859	185,349	28.2%	126,788	561.36
2019/3連	1,650,877	4.1%	153,323	157,936	-14.8%	112,571	511.90
2020/3連予	1,740,000	5.4%	148,000	149,000	-5.7%	103,000	483.14

## オリエンタルランド〈4661〉 東証1部

### 新アトラクションの人気を背景に好業績続く

#### ■第1四半期は営業増益を確保

2020年3月期の第1四半期(19年4-6月)は売上高が前年同期比0.2%減の1205億円、営業利益が同7.1%増の319億円となった。テーマパーク内での1人当たりの売上高が前年同期を若干下回ったことなどから売上高は微減となったが、ゴールデンウィークの大型連休の効果やスペシャルイベント「ディズニー・イースター」実施などから入園者数は予想以上に増加している。また、商品や飲食の原価率が改善したことなどから営業増益を達成し、順調なスタートになった。

#### ■7月以降も新アトラクションが人気を博す

第2四半期以降も順調な業績が期待される。7月にオープンした新アトラクション「ソアリン:ファンタスティック・フライト」が人気を博しており、集客効果が高まると想定される。また、来年の東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う海外からの入園者増加や

売買単位	100 株
8/9 終値	14980 円
目標株価	17000 円
業種	サービス

来春オープン予定の大型アトラクション「美女と野獣“魔法のものがたり”」の導入効果も見込まれ、中期的な成長性は高まっている。株価は今月8日に年初来高値15300円を付け、目先は調整を強いられる可能性もあるが、押し目買いの好機と捉えたい。目標株価は現値を1割強上回る17000円に設定する。

#### ★リスク要因

新アトラクションの不振、インバウンド減少など。

4661:日足

足元では上昇ペースが一段と加速。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/3連	465,353	-0.2%	107,357	109,214	-1.2%	73,928	221.26
2017/3連	477,748	2.7%	113,152	114,611	4.9%	82,374	248.39
2018/3連	479,280	0.3%	110,285	111,660	-2.6%	81,191	246.70
2019/3連	525,622	9.7%	129,278	129,439	15.9%	90,286	274.65
2020/3連予	479,240	-8.8%	92,940	93,880	-27.5%	65,300	198.60

## 日本動物高度医療センター〈6039〉マザーズ

### ペットの高度医療が着実に増加

#### ■業績への期待が回復

犬猫を中心とするペットの高度医療を行う動物病院を展開し、今年5月末時点で全国3556の動物病院(一次診療施設)と連携している。8月1日に発表した2020年3月期の第1四半期(19年4-6月)業績は、売上が前年同期比10.2%増の6.69億円、経常利益が同43.0%増の1.13億円と高い変化率を記録した。高度医療への取り組みを続けた結果、初診数が同10.0%増、手術数が同16.8%増に拡大し、利益を押し上げたことが背景にある。期初の通期計画が慎重(1.2%経常増益見通し)だったこともあり、増額期待が膨らんでいる。

#### ■目標株価は3000円回復

5月9日の通期決算発表における今期計画がネガティブ視され、窓を大きく開けての急落となった後は2200円を挟んだ安値もみあいが続いていた。しかし、第1四半期決算発表

売買単位	100 株
8/9 終値	2535 円
目標株価	3000 円
業種	サービス

が転機となり、基調は一気に陽転した。13 週線は上昇に転じつつあり、日足ベースでは急上昇の5 日線が5 月以来となる200 日線突破を果たしてきた。5 月の急落前水準である3000 円が目標株価となってくるだろう。

#### ★リスク要因

獣医師不足への対応。

#### 6039: 日足

5日線が75日線、200日線を次々突破。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/3連	2,093	10.5%	244	232	62.2%	214	92.91
2017/3連	2,191	4.7%	294	279	20.3%	229	98.09
2018/3連	2,258	3.1%	279	263	-5.7%	208	87.63
2019/3連	2,563	13.5%	397	404	53.6%	294	122.06
2020/3連予	2,650	3.4%	410	410	1.5%	300	123.88

## TDK 〈6762〉 東証1部

### リチウム2次電池などの好調で業績上振れへ

#### ■第1四半期営業益は会社計画を上回る

2020年3月期第1四半期(19年4-6月)は売上高が前年同期比1.8%減の3368億円、営業利益が同1.7%減の249億円となった。自動車向けのセラミックコンデンサなど受動部品事業が低迷した一方、スマートフォン向けなどのリチウム2次電池といったエネルギー応用製品事業が好調で、ほぼ前年同期並みを維持した。ただ、会社計画(営業利益で200億円程度)は上回った。応用製品事業では、スマホ向けのほか、電子タバコやゲーム機向けに小型製品の販売が拡大したことから、前年同期比3割近い伸びを達成した。

#### ■通期業績計画の上振れも期待される

同社は今回の第1四半期決算発表時、通期業績予想を据え置いた。米中貿易摩擦の長期化の影響や為替相場の動向が不透明なことが背景にある。ただ、事業環境が大きく悪化しなければ

売買単位	100 株
8/9 終値	8380 円
目標株価	10000 円
業種	電気機器

ば、エネルギー応用製品事業を軸に計画上振れは期待できる。次世代通信規格「5G」や自動車電装化も追い風で、受動部品事業やセンサ応用製品事業の改善が期待される。株価は目先、調整色を強める可能性もあるが、中期的に4月高値10000円が目標となってくるだろう。

#### ★リスク要因

急激な円高進行やリチウム2次電池の販売不振など。

6762:日足

5月安値以降は緩やかに下値を切り上げるトレンドが継続。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/3連S	1,152,255	6.4%	93,414	91,839	23.2%	64,828	514.23
2017/3連S	1,178,257	2.3%	208,660	211,717	130.5%	145,099	1150.16
2018/3連S	1,271,747	7.9%	89,692	89,811	-57.6%	63,463	502.80
2019/3連S	1,381,806	8.7%	107,823	115,554	28.7%	82,205	651.02
2020/3連S予	1,420,000	2.8%	120,000	118,000	2.1%	84,000	665.11

## 識学〈7049〉マザーズ

### 組織マネジメント理論のコンサルが拡大

#### ■スポーツ、芸能、介護などにも展開

人間の意識構造に着目した独自の理論をベースにした組織マネジメント理論「識学」を提供するコンサルティング会社。スポーツ分野への講師派遣、アイドルグループ「SKE48」の運営会社への識学提供、不登校問題の解決のための識学活用の窓口開設など多彩な展開を見せている。6月6日には介護業界を中心にeコマース事業、展示会事業などを展開するブティックス<9272>との介護領域における識学サービス利用促進に関する事業提携を発表し、新分野の開拓に乗り出している。

#### ■目先は75日線水準の1900円が目標

5月末を基準日とし、1株につき3株の割合で上場後初の株式分割を実施したことをきっかけに、株価は調整局面入りとなった。8月5日には上場来安値1300円を付け、2月の上場時の初値を下回った(株式分割考慮)ことで、調整一巡感が台頭している。下

売買単位	100 株
8/9 終値	1590 円
目標株価	1900 円
業種	サービス

降する13週線の位置する1800円台までは自律反発による戻りが意識される。日足ベースでは5日線が上昇に転じ、25日線を上抜いてくれば基調転換が鮮明となる。75日線水準の1900円を目先の目標株価とする。

#### ★リスク要因

顧客情報管理などのセキュリティ面。

7049: 日足

5日線と25日線のクロスが迫る。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/2単	119	-	-	3	-	1	188030.00
2017/2単	317	166.4%	-5	-7	-	-6	-
2018/2単	755	138.2%	68	69	-	42	38921.41
2019/2単	1,251	65.7%	247	233	237.7%	162	74.03
2020/2連予	1,755	-	280	278	-	193	25.88

## ゼンショーホールディングス〈7550〉東証1部

### 海外での業容拡大により成長図る

#### ■海外の牛丼やファストフード等のカテゴリーが拡大

牛丼の「すき家」等を運営する大手外食チェーン。海外展開を積極化。6月末の店舗数は9719。2020年3月期第1四半期(19年4-6月)は牛丼とファストフードカテゴリーが堅調に推移して増収、2ケタ増益と好スタートだった。通期でも増収増益を見込む。前期の新規出店数400のうち、海外は345。今期計画している625の新規出店のうち、海外は508と出店を加速する。牛丼カテゴリーでは「すき家」の海外出店が業績けん引の主因となっている。また、昨年の米国やカナダ、オーストラリアで寿司のテイクアウト店を展開するAdvanced Fresh Concepts Corpの子会社化に続き、今年マレーシアを中心にチキンライス業態を展開するTCRSを子会社化した。海外での業容拡大が進展している。

#### ■海外成長期待を背景に上値追いへ

株価は今第1四半期の決算を受けて出来高を伴って急騰し

売買単位	100 株
8/9 終値	2451 円
目標株価	2700 円
業種	小売

た。今後は海外での成長期待を背景に、上値追いの展開となることを想定する。目標株価は3月戻り高値水準の2700円とする。

#### ★リスク要因

節約志向の更なる高まり、原材料価格や人件費の高騰。

7550:日足

5日線と25日線、75日線がゴールデンクロス。200日線水準に到達。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2016/3連	525,709	2.7%	12,113	11,380	295.8%	4,026	27.09
2017/3連	544,028	3.5%	18,775	18,061	58.7%	8,443	56.87
2018/3連	579,108	6.4%	17,611	17,656	-2.2%	8,001	54.18
2019/3連	607,679	4.9%	18,834	18,211	3.1%	9,924	67.93
2020/3連予	661,367	8.8%	23,848	22,133	21.5%	10,460	71.95

## サイゼリヤ〈7581〉東証1部

### 円高メリット銘柄として上値追いを期待

#### ■既存店好調で第3四半期累計営業利益は増益転換

ドル円相場が 105 円台まで下落する中、円高メリット銘柄の一角として注目したい。既存店売上高の復調を背景に 3-5 月期の業績は好調、上半期の前年同期比 5.7% 営業減益から第3 四半期累計では同 2.0% の営業増益に転じている。7 月の月次は伸び悩んだものの、6 月もプラス基調は続いていたことから、第4 四半期業績も堅調な推移が見込まれる。今後の成長けん引期待のアジアセグメントが順調に拡大していることもポジティブ材料と捉えられる。また、円高による原材料費の低下を想定すれば、新年度の業績ガイダンスなどにも期待感が高まってこよう。なお、8 月末にかけての優待権利取りの動きなども意識されるところ。

#### ■窓埋めからリバウンドへ

7 月には決算を好感して窓を空けて上昇、その後の調整で 8

売買単位	100 株
8/9 終値	2587 円
目標株価	3000 円
業種	小売

月 6 日には当時の窓を埋める格好となったが、前週末にかけてはリバウンドに転じた。105 円水準の円高定着による収益改善期待から、再度上値追いの展開に移行していこう。昨年前半のもみ合い水準で、節目となる 3000 円を目標株価とした。

#### ★リスク要因

月次既存店売上の失速基調継続。

#### 7581: 日足

調整局面では 75 日線が支持線として機能する状況が続く。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2015/8連	139,277	10.9%	7,511	8,004	35.3%	3,774	74.70
2016/8連	144,961	4.1%	9,006	9,134	14.1%	5,505	108.65
2017/8連	148,306	2.3%	11,216	11,885	30.1%	7,496	151.48
2018/8連	154,063	3.9%	8,640	8,895	-25.2%	5,074	102.69
2019/8連予	158,800	3.1%	9,100	9,500	6.8%	4,600	93.09

## アシックス〈7936〉東証1部

### 海外での持続的成長への施策を推進

#### ■米国と中国でのシェア獲得への施策が進展

シューズが主力のスポーツ用品大手。6月末の国内外の直営店舗数は930。2019年12月期上期(1-6月)収益は上振れ着地。販管費の減少など事業構造改革が奏功した。通期の経常・純利益は、連結納税制度の対象子会社の堅調な業績推移に伴う税金費用の減少等により上方修正した。同社は中期経営計画のなかで最大市場の米国におけるパフォーマンスランニングシューズへの注力を掲げている。高機能シューズの市場投入やマーケティング投資により販売が堅調に推移している。また、市場の拡大が続く中国市場における成長加速も目標としている。シェア獲得のために中国本部を上海に設置した。また中国で初のオニツカタイガー旗艦店を上海にオープン。アパレルやアクセサリーの現地企画開発機能も強化した。さらに中国大手のEリテイラーとの関係強化でデジタル領域でも成長加速を図っている。

売買単位	100 株
8/9 終値	1541 円
目標株価	1675 円
業種	その他製品

#### ■年初来高値を目指す

株価は通期業績の修正を受けて窓を開けて急騰。今後も海外での成長期待を背景に上値迫りが続く展開を想定する。創立70周年記念配当の実施も株価を後押し。目標株価は2月に付けた年初来高値水準の1675円とする。

#### ★リスク要因

急激な円高。

#### 7936: 日足

株価は窓を開けて急騰し、4月高値を突破。次は2月高値を意識。



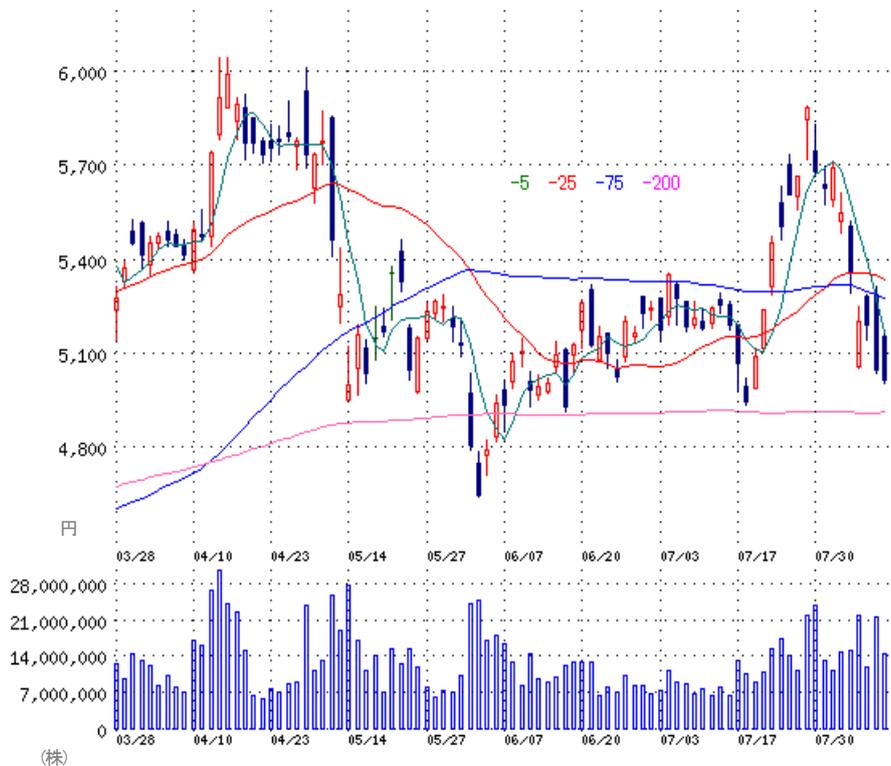
(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2015/12連	428,496	21.0%	27,448	22,533	-34.3%	10,237	53.93
2016/12連	399,107	-6.9%	25,472	23,408	3.9%	15,566	82.01
2017/12連	400,157	0.3%	19,571	21,738	-7.1%	12,970	68.33
2018/12連	386,662	-3.4%	10,515	8,763	-59.7%	-20,327	-
2019/12連予	390,000	0.9%	12,000	12,500	42.6%	7,500	39.71

## ソフトバンクグループ 東証1部<9984>/目先はアリババの決算などに注目

7日に第1四半期決算を発表、営業利益は6888億円で前年同期比3.7%減益となった。前年同期に約1600億円の一時的利益を計上しているため減益となったが、ビジョン・ファンド事業の利益拡大を主因に、市場予想は大幅に上回る着地となった。上振れ決算を受けて買い先行となったものの、同事業を除いたベースではほぼ市場想定通りでサプライズは限定的と捉えられた。

今後もビジョンファンドでのIPO増加、スプリントとTモバイルの合併などといったポジティブなカタリストは残るものの、米IT関連の先行き懸念は拭い切れず、本格反発には向かいにくいとみられる。当面は200日線レベルまでの調整場面での押し目買いに関心。今週は15日にアリババグループが決算を発表。同社保有株時価の約4分の1を占めているだけに、決算後の株価動向には注目が集まろう。



## 資生堂 東証1部<4911>/リバウンドには一巡感も強まる公算

先週末は大幅続伸となった。8日に上半期の決算を発表、営業利益は690億円で前年同期比3.0%減益となったが、1-3月期389億円、同17.4%減益に対して、4-6月期は300億円で同25.4%増と増益に転換、市場予想も50億円程度上振れる着地になっている。中国事業の収益構造の改善などが上振れ決算に寄与した。インバウンド需要の鈍化による影響が警戒されていた中、セクター内での相対的な堅調推移が評価される流れになっている。

インバウンド関連の代表格であるコーセーが想定を下回る決算となったほか、花王も決算がネガティブ視されていた中、同社の堅調な決算にはサプライズもあった。ただ、米中貿易競争が長期化するに連れ、中国の個人消費鈍化は避けられないだろう。直近急落前の水準にまでいったんは反発したが、目先の買い戻しが一巡するなかでは、さらなる反発余地は限定的か。



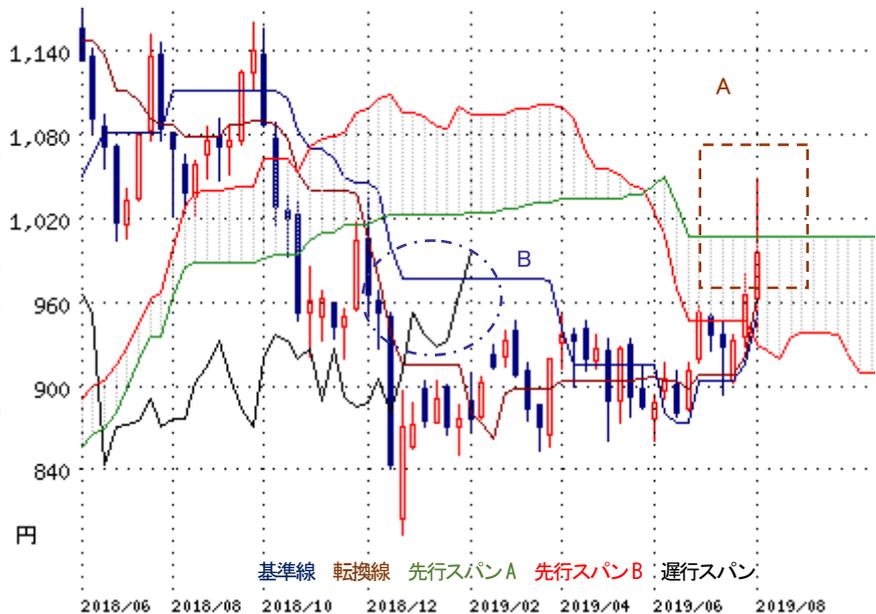
美津濃 東証1部(8022)

日足ベースのローソク足。6月3日2321円と8月6日2351円でダブルボトムを形成した後、8日はマドを空けて急伸。翌9日は出来高が前日から半減するなか、連続陽線を引いて年初来高値を更新して上値での売り物の少なさを窺わせるとともに（点線・四角A）、5日移動平均線が25日線を上抜く短期ゴールデンクロスを示現。さらに25日線が75日線の下から接近しており（点線・丸B）、今後は買い手主導の展開が期待できよう。



TOKAIホールディングス 東証1部(3167)

週足ベースの一目均衡表。先週は昨年10月2週以来およそ10カ月ぶりに雲上限を突破する場面があった（点線・四角A）。基準線とその上を走る転換線はともに上向いて上昇トレンド継続を示唆。遅行線は8週連続で株価を上回って強気シグナルを発生している（点線・丸B）。週末終値が雲上限を突破すれば三役好転が完成し、株価の上昇傾向が一段と鮮明になりそうだ。13週線や26週線が上昇していることも強気材料。



## テーマ別分析: 関心集めるレンタル・シェアオフィス

### ■東京五輪の交通渋滞対策としても注目

働き方改革をサポートする企業の業績好調が確認されるなか、その延長線上にあるレンタルオフィス関連企業の業績も総じて堅調となっている。シェアオフィス、コワーキングスペース、サテライトオフィスと厳密にはオフィスのサービス、間取りなどから違いはあるものの、共通するのは働く場所の提供ビジネスだ。

働き方改革やアーリーステージのベンチャー企業等の活用など長期的な需要が期待されているが、開幕まで1年を切った東京オリンピック開催期間の交通渋滞の解消策としてもレンタルオフィス活用が関心を集めている。また、五輪後にホテル需要が減少すれば、シェアオフィスに業態転換する動きも出てくる可能性がある。

### ■主な「レンタルオフィス・シェアオフィス」関連銘柄

コード	銘柄	市場	8/9 株価(円)	概要
3479	ティーケーピー	マザーズ	5,600.0	シェアオフィスを世界展開するスイスIWGの日本事業を買収
3681	ブイキューブ	東証1部	561.0	JR東日本のシェアオフィスに、個室ブース筐体ワークボックス提供
3900	クラウドワークス	マザーズ	1,230.0	クラウドソーシング柱にレンタルオフィスに参入
3929	ソーシャルワイヤー	マザーズ	804.0	プレスリリースの配信代行とレンタルオフィスが2大収益部門
4324	電通	東証1部	3,575.0	京都の会員制コワーキング施設「engawa KYOTO」が話題に
7458	第一興商	東証1部	4,645.0	カラオケルーム「ビッグエコー」の首都圏一部店舗をワークスペースに
8801	三井不動産	東証1部	2,307.5	法人向け多拠点型シェアオフィスなど多彩なサービスを完備
8802	三菱地所	東証1部	1,999.5	スタートアップ企業向けオフィス提供
8804	東京建物	東証1部	1,283.0	会員制シェアオフィス「+OURS(プラスアワーズ)」スタート
8830	住友不動産	東証1部	3,965.0	スタートアップ企業向けオフィス提供に注力
8889	APAMAN	JASDAQ	907.0	子会社fabbitがコワーキングスペースを運営
9005	東京急行電鉄	東証1部	1,939.0	同社運営の「NewWork」は使用時間に応じ料金を請求されるシステム
9008	京王電鉄	東証1部	6,950.0	東京・新宿で、自社不動産を活用した会議室などの「時間貸し」事業
9020	東日本旅客鉄道	東証1部	10,050.0	8月東京・新宿・池袋・立川の各駅で、ブース型シェアオフィスを開始
8591	オリックス	東証1部	1,498.5	クロスオフィスブランドでシェアオフィスを首都圏で展開
9984	ソフトバンクグループ	東証1部	5,014.0	米シェアオフィス大手のウィークワークに出資

出所: フィスコ作成

## 好業績で値動きの良い中小型株に関心のタイミング

### ■主力株は動意しにくい局面に

今週は国内がお盆休みシーズンに入るほか、国内外で大きなイベントも予定されていない。一般的に様子見ムードが強まるとみられるが、とりわけ機関投資家が売買の中心となる主力株は動意しにくい状況となろう。このため、個人投資家が中心となる中小型株に関心を高めたい局面となる。好業績で値動きも良く、流動性がそれなりに高い銘柄群に注目したい。

スクリーニング要件としては、①時価総額が1000億円未満、②前期実績、今期見通しともに20%以上の営業増益、③4月以降の株価上昇率が25%以上、④信用買残が20万株以上。

### ■好業績・株価堅調の中小型株

コード	銘柄	市場	8/9株価 (円)	時価総額 (億円)	株価騰落率 (%)	信用買残(株)	予想 1株利益 (円)
2160	ジーエヌアイグループ	マザーズ	4,340.0	603.4	51.59	1,306,200	7.41
3677	システム情報	東証1部	1,202.0	284.5	26.53	454,700	38.87
4320	CEホールディングス	東証1部	1,226.0	92.5	53.83	380,700	53.05
4557	医学生物学研究所	JASDAQ	3,070.0	160.0	61.58	233,300	164.38
5704	JMC	マザーズ	1,761.0	93.0	36.41	930,100	52.35
6064	アクトコール	マザーズ	1,347.0	106.9	83.02	236,300	67.28
6533	Orchestra Holdings	東証1部	1,282.0	110.7	42.92	368,900	45.43
6541	グレイステクノロジー	東証1部	3,010.0	416.1	49.16	372,900	35.50
6677	エスケーエレクトロニクス	JASDAQ	2,142.0	243.5	40.64	332,000	379.70
6838	多摩川ホールディングス	JASDAQ	1,630.0	73.0	115.89	627,500	73.58

(注) 株価騰落率は3/31終値との比較

## 最後の楽園アフリカ

### ■今世紀末まで人口増加が続くアフリカ

8月28-30日にアフリカ開発をテーマとする国際会議である第7回アフリカ開発会議（TICAD）が横浜で開催される。SMBC日興証券は、少子高齢化などにより2050年代で人口が頭打ちとなるアジアと対照的に、今世紀末に向けて右肩上がり人口増加が見込まれているアフリカに注目している。アフリカの人口は、ナイジェリアでは約1億9000万人、コンゴ民主共和国は約9,500万人の人口を有しており（2018年時点 IMF 予想）、労働力の安い生産国としてだけでなく、将来の消費マーケットとしても有望だと考察。1人当たりのGDPは2017年時点でインドが2,014ドルだったのに対し、ナイジェリアは1,995ドル、ケニアは1,695ドルと今後の長期的な成長が期待されると分析している。同レポートでは、アフリカビジネスに取り組む日本企業のうち主な銘柄を掲載している。

### ■主なアフリカ関連銘柄(SMBC日興証券)

コード	企業名	概要
1377	サカタのタネ	国内種苗業界で首位級。売上高の約6割は海外で、約22カ国に拠点。1950年代からアフリカ向け事業。
2802	味の素	130以上の国と地域で事業展開。16年にアフリカ36カ国で展開する大手加工食品メーカーに出資。
4005	住友化学	防虫剤処理蚊帳「オリセット®ネット」は国連機関を通じて、世界80カ国以上に供給されている。
4613	関西ペイント	総合塗料の国内最大手級。南アフリカなどで生産増強や工場新設など積極的な投資を展開。
7272	ヤマハ発動機	2輪中心に新興国に強く、アフリカなどにも早くから進出。
8015	豊田通商	12年にアフリカに強い仏大手商社CFAOを買収し、アフリカでの存在感は商社有数。

※出所: SMBC日興証券レポートより引用

## 売り方優位の状況が続く

8月2日時点の2市場信用残高は、買い残高が1193億円増の2兆3144億円、売り残高が620億円減の8902億円。買い残高が2週間ぶりに増加し、売り残高は2週間ぶりに減少した。また、買い方の評価損益率は-14.41%から-14.20%、売り方の評価損益率は+5.80%から+8.48%になった。なお、信用倍率は2.30倍から2.60倍となっている。

この週(7月29日-8月2日)の日経平均は前週末比570.99円安の21087.16円。キーエンス<6861>などの決算で投資家心理が悪化し29日の日経平均は小幅続落。30日の日経平均は反発したが、30日のNYダウは、トランプ大統領が中国を批判するツイートを行ったことを嫌気して反落。これを受けて31日の日経平均も大幅安に。米連邦公開市場委員会(FOMC)では、政策金利が0.25%引き下げられたが、パウエル議長の発言が嫌気され、31日のNYダウが急落。この流れから1日の日経平均は売りが先行するも、決算が好感された村田製作所<6981>などが買われた他、円安進行も好感されプラス圏を回復。しかし、トランプ大統領が対中制裁関税「第4弾」を9月1日から課す計画を発表し、1日のNYダウが大幅続落すると、2日の東京市場は全面安商況に。一時6月25日以来の1ドル=106円台となる急激な円高も嫌気された。

個別では、バンナムHD<7832>の信用倍率が4.59倍から0.35倍に。日経平均の構成銘柄に新規採用となった同社は需給インパクトが期待されるなかで買い残高が増加。その後、買い方の処分売りが優勢となった。また、カシオ<6952>も1.22倍から0.28倍となった。決算評価から急伸する局面において、新規売りが積み上がった。



### 取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	8/9終値 (円)	信用買残 (8/2:株)	信用売残 (8/2:株)	信用倍率 (8/2:倍)	信用買残 (7/26:株)	信用売残 (7/26:株)	信用倍率 (7/26:倍)
7832	東証1部	バンナムHD	6,040.0	210,700	598,200	0.35	1,334,600	290,500	4.59
6952	東証1部	カシオ	1,428.0	218,500	767,500	0.28	387,000	316,100	1.22
3092	東証1部	ZOZO	2,087.0	3,768,900	5,676,700	0.66	6,267,800	3,702,800	1.69
8276	東証1部	平和堂	1,924.0	117,400	829,300	0.14	92,300	290,500	0.32
2157	東証1部	コシダカHD	1,594.0	441,300	1,055,000	0.42	549,400	597,600	0.92
6762	東証1部	TDK	8,380.0	439,500	192,200	2.29	591,700	140,700	4.21
6080	東証1部	M&Aキャピ	6,470.0	215,400	181,600	1.19	283,100	137,200	2.06
7554	東証1部	幸楽苑HD	2,550.0	74,900	511,000	0.15	122,300	479,100	0.26
3667	東証1部	enish	855.0	2,913,400	2,652,500	1.10	2,479,100	1,336,600	1.85
9601	東証1部	松竹	11,710.0	30,400	114,700	0.27	33,800	78,100	0.43
3048	東証1部	ビックカメラ	1,071.0	775,400	1,266,100	0.61	674,600	739,200	0.91
2502	東証1部	アサヒ	4,867.0	281,100	323,400	0.87	368,400	294,900	1.25
7545	東証1部	西松屋チエ	870.0	177,900	1,881,600	0.09	170,600	1,320,800	0.13
6701	東証1部	NEC	4,740.0	1,311,900	423,400	3.10	1,609,300	363,200	4.43
4062	東証1部	イビデン	2,064.0	150,600	498,500	0.30	177,500	420,400	0.42

## コラム: 英首相に早くも退陣シナリオ

ポンドの下落基調に歯止めがかかりません。反欧州連合(EU)のジョンソン政権の発足が背景で、10月31日の離脱期限を控え国内やEUとの調整は難航必至とみられます。ブレグジットに行き詰まれば政権の存続理由は失われ、退陣を余儀なくされるでしょう。

ポンド・円は今年3月の148円をピークに下落方向に振れています。5月にメイ前首相の辞任が確定的になると、145円付近から下げ足を速め1カ月で138円に下落。さらに保守党党首選でジョンソン氏が選出されると下落ペースは加速し、重要な節目130円を割り込んで8月は128円台に沈んでいます。春先から20円近くも下げたことになり、EU離脱を問う国民投票後に付けた最安値の124円が視野に入ってきました。

ジョンソン政権の発足で、「合意なき」ブレグジットが現実問題として意識され始めたのがポンド安の要因です。EU側は、メイ政権の協定案が基本だとしてイギリスとの再交渉に否定的なスタンスを変えていません。ジョンソン氏は党首選の期間中、EUとの再交渉に意欲をみせていましたが、EUが態度を硬化させているとして、アイルランドとの国境管理に関するバックストップを削除しなければEUとは交渉しない考えを示しています。

一方、スコットランドのスタージョン首相は初会談を行ったジョンソン首相について表向きはEUとの合意を目指しているとしながらも、実際には「合意なき」を追求しており「極めて危険」と指摘。イギリス経済にとって最悪シナリオが現実になるとの警戒感から、ポンドは全面安になる場面が目立ちます。ポンドには値ごろ感による押し目買いは入っても、中長期的に売りは避けられない見通しです。

10月末のブレグジットに向けては、1)円満離脱、2)強硬離脱、3)解散・総選挙などに伴う延期、の3つの選択肢が考えられます。足元では2)の現実味が増していますが、議会の親EU議員はそれを阻止する動きに出るでしょう。そうなれば3)の可能性が高まり、国民投票の結果を前提にEU離脱の路線の違いを最大の争点とした選挙戦が想定されます。離脱か残留か支持は今も拮抗しており、勝敗の行方はわかりません。

今年5月に行われた欧州議会選ではブレグジット党が躍進し、離脱は依然として強い民意のようです。半面、8月1日に行われたウェールズの補欠選挙で、EU残留を訴えた自由民主党候補が出直しの保守党候補に大勝しています。この選挙区でみられたように、離脱の支持票が保守党とブレグジット党に分散されれば、漁夫の利で野党勝利の可能性があります。その場合、ジョンソン首相は即退陣となります。

ジョンソン首相については、やんちゃで憎めない人柄とみられる一方、「孤独で小心者」という毎度おなじみのルサンチマン的な人物評もあります。いずれにしてもキャラクターで離脱を乗り切るのは困難です。それより、ジャーナリストの世界には行儀の悪さを「武勇伝」として競い合うカルチャーが残っていますが、記者上がりのジョンソン氏にとって「首相の地位を捨てポンドを救った」と歴史に語り継がれる方が名誉でしょう。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-7
2	レーティング	格上げ・買い推奨	8
		格下げ・売り推奨	9
3	投資主体別売買動向	総括コメント	10
		市場別データ	11
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	12
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（東証1部）	13
		雲下抜け銘柄（東証1部）	14

8月12日～8月16日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月12日	月	20:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-M、1次プレビュー)(8月)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		27:00	米・財政収支(7月)
			株式市場は振替休日のため休場
			ブ・貿易収支(週次)(8/6-8/12、13日まで(に))
			ブ・経済活動(6月、14日まで(に))
			中・マネーサプライ(7月、15日まで(に))
			中・資金調達総額(7月、15日まで(に))
	中・新規元建て融資(7月、15日まで(に))		
8月13日	火	08:50	国内企業物価指数(7月)
		09:00	シンガポール・GDP(4-6月)
		13:30	第3次産業活動指数(6月)
		15:00	工作機械受注(7月)
		15:00	独・CPI(7月)
		17:30	英・失業率(7月)
		17:30	英・ILO失業率(3カ月)(6月)
		18:00	独・ZEW期待指数(8月)
		21:00	印・CPI(7月)
		21:30	米・消費者物価コア指数(7月)
			決算発表 パン・パンフィック・インター
			印・貿易収支(7月、14日まで(に))
			決算発表 JDDットコム
8月14日	水	08:50	コア機械受注(6月)
		10:00	営業毎旬報告(8月10日現在、日本銀行)
		11:00	中・固定資産投資(都市部)(7月)
		11:00	中・鉱工業生産(7月)
		11:00	中・小売売上高(7月)
		11:00	中・調査失業率(7月)
		11:00	中・不動産投資(7月)
		15:00	独・GDP(4-6月)
		15:30	印・卸売物価(7月)
		17:30	英・消費者物価コア指数(7月)
		17:30	英・生産者物価産出コア指数(7月)
		18:00	欧・ユーロ圏GDP(4-6月)
		18:00	欧・ユーロ圏鉱工業生産(6月)
		20:00	米・MBA住宅ローン申請指数(先週)
		21:30	米・輸入物価指数(7月)
			決算発表 光通信、出光興産
			決算発表 シスコ・システムズ、テンセント・ホールディングス

8月12日~8月16日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月15日	木	10:30	中・新築住宅価格(7月)
		10:30	豪・失業率(7月)
		13:30	設備稼働率(6月)
		16:00	トルコ・失業率(5月)
		17:30	英・小売売上高指数(7月)
		20:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-10)(8月)
		21:30	米・ニューヨーク連銀製造業景気指数(8月)
		21:30	米・フィラデルフィア連銀製造業景況指数(8月)
		21:30	米・小売売上高(7月)
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		22:15	米・鉱工業生産指数(7月)
		22:15	米・設備稼働率(7月)
		23:00	米・NAHB住宅市場指数(8月)
		23:00	米・企業在庫(6月)
		29:00	米・対米証券投資(6月)
			決算発表 日本ビルファンド投資法人
			決算発表 エヌビディア、アリババ・グループ・ホールディングス、ウォルマート、アプライド・マテリアルズ、レノボ
8月16日	金	08:50	対外・対内証券投資(先週)
		13:00	マレーシア・GDP(4-6月)
		18:00	欧・貿易収支(6月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(8月15日まで1カ月間)
		21:30	米・住宅着工件数(7月)
		21:30	米・住宅建設許可件数(7月)
		23:00	米・ミシガン大学消費者信頼感指数速報(8月)
			国債買い入れオペ(残存5-10年)(日本銀行)
			石油輸出国機構(OPEC)月報

**■(米)7月消費者物価コア指数****13日(火)午後9時30分発表予定**

(予想は前年比+2.1%) 参考となる6月実績は前年比+2.1%。6月は居住費、中古車、被服費、家具などの価格が上昇し、インフレ率上昇に寄与した。7月については、居住費の伸びが継続していることや、被服費の上昇も予想されており、コアインフレ率は6月実績と同水準となる可能性がある。

**■(欧)4-6月期ユーロ圏域内総生産改定値****14日(水)午後6時発表予定**

(予想は前年比+1.1%) 4-6月期域内総生産(GDP)速報値は前年比+1.1%。市場予想と一致したものの、経済成長ペースは前四半期との比較で減速した。フランス、スペイン、オーストリア、ベルギーの経済成長はいずれも鈍化。イタリアはゼロ成長。速報値ではドイツGDP統計が追加されるが、ドイツの成長率は1-3月期との比較で鈍化が予想されており、域内総生産の伸びはある程度抑えられることになりそうだ。

**■(米)7月小売売上高****15日(木)午後9時30分発表予定**

(予想は前月比+0.2%) 参考となる6月実績は前月比+0.4%。主要13項目のうち11項目で増加。7月については、個人消費が順調であること、主要13項目における減少は数項目にとどまる可能性があることから、反動減となる可能性は低いとみられる。市場予想は妥当な水準か。

**■(米)8月シガン大学消費者信頼感指数****16日(金)午後11時発表予定**

(予想は97.1) 参考となる7月実績は98.4。また、7月CB消費者信頼感指数は市場予想を大きく上回る135.7に上昇した。8月については、雇用情勢に大きな変化がないものの、貿易問題などを巡る米中関係の悪化などが消費者信頼感の低下につながる可能性があり、7月実績を下回る可能性がある。

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	
8月13日	1716	第一カッター	東証1部	15:00	8月14日	6030	アドベンチャ(08/15)	マザーズ	16:00	
	1954	日工営	東証1部	15:00		6034	MRT(08/19)	マザーズ		
	2055	日和産	東証2部	15:00		6038	イード(08/16)	マザーズ	15:00	
	2122	スペース(08/14)	マザーズ	15:00		6063	EAJ	ジャスダックS	17:00	
	2144	やまねM	ジャスダックG	16:00		6085	アキテックスJ	マザーズ	15:00	
	2150	ケアネット(08/13)	マザーズ	15:00		6149	小田原	ジャスダックS	14:00	
	2191	テラ	ジャスダックS	15:00		6177	AppBank	マザーズ	16:00	
	2195	アマタHD	ジャスダックG	15:00		6181	パートナーA	マザーズ	15:00	
	2588	Pウォーター	東証2部			6189	グローバル	東証1部		
	2654	アスモ	東証2部	16:00		6428	オーイズミ	東証1部	15:00	
	2743	ピクセル	ジャスダックS	16:00		6538	キャリアIND	東証1部		
	2762	三光フーズ	東証2部			6548	旅工房	マザーズ	16:00	
	2780	コメ兵	東証2部	15:00		6556	ウェルビー	マザーズ	16:00	
	2820	やまみ	東証1部	15:00		6571	QBネットHD	東証1部	15:00	
	2874	ヨコレイ	東証1部	12:00		6619	WSCOE	東証1部	15:00	
	3058	三洋堂HD	ジャスダックS	15:00		6677	エスケーエレク	ジャスダックS	15:00	
	3138	富士マガ	マザーズ	12:00		6819	伊豆SR	ジャスダックS		
	3156	レスターHD	東証1部			6852	テクノセブン	ジャスダックS	16:00	
	3175	APC	東証1部			6969	松尾電	東証2部	16:00	
	3182	オイシックス	マザーズ	15:00		7039	ブリッジ	マザーズ		
	3252	日商開発	東証1部	16:00		7048	ベルトラ	マザーズ	15:00	
	3319	GDO	東証1部	15:00		7190	マーキュリア	東証1部	15:00	
	3322	アルファG	ジャスダックS	15:00		7522	ワタミ	東証1部	15:00	
	3356	テリロジ	ジャスダックS	15:00		7532	PPIHD	東証1部	15:00	
	3392	デリカフーズ	東証1部	14:00		7618	PCDEPOT	東証1部		
	3416	ピクスタ(08/13)	マザーズ	15:00		7676	グッドスピード	マザーズ	15:00	
	3457	ハウスドゥ(08/22)	東証1部	15:00		7677	ヤシマキザイ	東証2部	16:00	
	3487	CREロジスティクスファンド	東証REIT	15:00		7809	壽屋(08/29)	ジャスダックS	15:00	
	3489	フェイスNW	マザーズ	15:00		7814	日本創発(08/13)	ジャスダックS	10:00	
	3623	ピリングシス	マザーズ	15:00		7815	東ボード	東証2部	15:00	
	3668	コロプラ(08/13)	東証1部	15:00		8147	トミタ	ジャスダックS	11:00	
	3692	FFRI	マザーズ	15:00		8225	タカチホ	ジャスダックS	15:00	
	3727	APLIX(08/20)	マザーズ	15:00		8392	大分銀	東証1部	15:00	
	3775	ガイアックス(02/17)	セントレックス			8518	アジア投資	東証1部	15:00	
	3777	FHTHD	ジャスダックG			8705	岡藤HD	ジャスダックS	15:00	
	3900	クラウドワクス	マザーズ	16:00		8798	アドバンスク	東証1部	15:00	
	3904	カヤック	マザーズ	15:00		8854	日住サ	東証2部	15:00	
	3920	アイビーシー	東証1部	16:00		8869	明和地所	東証1部	14:00	
	3923	ラクス	マザーズ	15:00		9087	タカセ	ジャスダックS	15:00	
	3925	DS	東証1部	15:00		9260	Wismettac	東証1部	15:00	
	3927	F-ブレイク	マザーズ	15:00		9266	一家ダイニング	マザーズ	15:00	
	3934	ベネフィットJ	東証1部	15:00		9284	カナディアン	東証REIT	15:00	
	3966	ユーザベース	マザーズ	16:00		9362	兵機海	東証2部	16:00	
	3968	セグエグループ(08/21)	東証1部			9363	大連	東証2部		
	3986	ビーブレイク(08/22)	マザーズ	15:00		9386	日コンセプト	東証1部	15:00	
	3992	ニーズウェル	東証1部	15:00		9421	エヌジェイHD	ジャスダックS	16:00	
	4295	フェイス	東証1部	16:00		9517	イーレックス	東証1部		
	4381	ビーブラッツ	マザーズ	15:00		9707	ユニマツRC	ジャスダックS	15:00	
	4391	ロジザード(08/23)	マザーズ			9758	ジシステム	ジャスダックS	16:00	
	4395	アクリート(08/23)	マザーズ	15:00		9791	ビケンテクノ	東証2部	16:00	
4396	システムサポート	東証1部	15:00	1443	技研HD	東証2部				
4565	そーせい	マザーズ	15:00	1446	キャンディル	マザーズ	15:00			
4572	カルナバイオ(08/19)	ジャスダックG	15:00	1447	ITbookHD	マザーズ				
4575	CANBAS	マザーズ	15:00	1757	クレアHD	東証2部				
4664	RSC	ジャスダックS	15:00	1841	サンユ建	ジャスダックS	14:00			
4776	サイボウズ	東証1部	15:00	1914	日基礎	東証1部	11:00			
4990	昭和化	東証2部	14:00	2158	FRONTEO	マザーズ				
5363	TYK	東証1部	15:00	2160	ジーエヌアイ	マザーズ				
5610	大和重	東証2部	16:00	2183	リニカル	東証1部	16:00			
5987	オーネックス(08/28)	ジャスダックS	15:00	2215	第一パン	東証1部	16:00			

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
8月14日	2321	ソフトフロン	ジャスダックG	15:00	5019	出光興産	東証1部	15:00	
	2330	フォーサイド	ジャスダックス		5121	藤倉コン	東証1部	14:00	
	2334	イオレ	マザーズ	16:00	6033	エクストリーム	マザーズ	15:00	
	2340	極楽湯HD	ジャスダックス		6045	レントラックス	マザーズ	15:00	
	2388	ウェッジHD	ジャスダックG		6054	リブセンス	東証1部	15:00	
	2467	パルクHD	セントレックス		6061	ユニバ園芸	ジャスダックス	15:00	
	2498	ACHD	ジャスダックス	15:00	6069	トレンダーズ	マザーズ	15:00	
	2673	夢隊	ジャスダックス	15:00	6078	バリューHR	東証1部	14:00	
	2708	久世	ジャスダックス	15:00	6081	アライドアーキ	マザーズ		
	2721	JHD	ジャスダックス	16:00	6082	ライドオンE	東証1部	15:00	
	2831	はごろも	東証2部	15:00	6094	フリークHD(08/14)	マザーズ	15:00	
	3041	ピ花壇(08/27)	東証2部		6095	メビア	マザーズ	15:00	
	3042	セキュアヴェイ	ジャスダックG	15:00	6096	レアジョブ	マザーズ		
	3135	マーケットE(08/21)	マザーズ	15:00	6191	エポラブルA(08/28)	東証1部		
	3197	すかいらく	東証1部	15:00	6198	キャリア	マザーズ	16:00	
	3288	オープンハウス	東証1部	15:00	6291	エアテック	東証1部	16:00	
	3300	AMBITION(08/23)	マザーズ	15:00	6298	ワイエイシイ	東証1部	15:00	
	3326	ランシステム(08/30)	ジャスダックス	15:00	6334	明治機	東証2部		
	3350	RED	ジャスダックス	15:00	6335	東京機	東証1部	15:00	
	3358	ワイエスフード	ジャスダックス	15:00	6343	フリージアマク	東証2部	15:00	
	3397	トリドールHD	東証1部	16:00	6494	NFK-HD	ジャスダックス	16:00	
	3556	リネットジャパンG	マザーズ		6531	リファインバス(08/16)	マザーズ	15:00	
	3639	ボルテージ(08/15)	東証1部	16:00	6533	オーケストラ(08/21)	東証1部	15:00	
	3649	ファインデクス(08/20)	東証1部	15:00	6545	IIF	マザーズ	15:00	
	3661	エムアップ	東証1部	15:00	6551	ツナグGHD	東証1部	15:00	
	3672	オルトプラス	東証1部	15:00	6561	HANATOUR	マザーズ	15:00	
	3674	オークファン	マザーズ		6563	みらいワークス	マザーズ	16:00	
	3675	クロスマーケG	東証1部		6628	オンキヨー	ジャスダックス	16:00	
	3680	ホットリンク	マザーズ	16:00	6731	ピクセラ	東証2部	16:00	
	3681	ブイキューブ(08/15)	東証1部	15:00	6786	RVH	東証2部		
	3691	リアルワールド	マザーズ	15:00	6835	アライドHD	東証2部	15:00	
	3694	オプティム	東証1部	15:00	6838	多摩川HD	ジャスダックス	16:00	
	3758	アエリア	ジャスダックス		6890	フェローテク	ジャスダックス	15:00	
	3803	イメージ情	ジャスダックG	15:00	6942	ソフィアHD	ジャスダックス	16:00	
	3807	フィスコ	ジャスダックG		6977	抵抗器	東証2部	14:00	
	3825	REMIX	東証2部	15:00	7038	フロンティアM	マザーズ	15:00	
	3840	PATH	東証2部	15:00	7041	CRGHD	マザーズ		
	3845	アイフリーク	ジャスダックス		7044	ピアラ(08/15)	マザーズ	15:00	
	3856	エーバランス	東証2部		7057	エヌ・シー・エヌ	ジャスダックス	15:00	
	3858	ユビキタスAI	ジャスダックス	15:00	7061	日本ホスピスHD	マザーズ	15:00	
	3909	ショーケース	東証1部		7063	エードット(08/27)	マザーズ	16:00	
	3928	マイネット	東証1部	15:00	7066	ピアズ	マザーズ	15:00	
	3960	バリューデザイン(08/22)	マザーズ		7199	プレミアグループ(11/15)	東証1部	15:00	
	3962	チェンジ	東証1部	15:00	7320	日本リビング保証(08/19)	マザーズ	16:00	
	3975	AOITYOHD	東証1部	15:00	7325	アイリック(08/19)	マザーズ	15:00	
	3979	うるる	マザーズ	16:00	7462	ダイヤ通商	ジャスダックス	15:00	
	3989	シェアリングT	マザーズ	15:00	7585	かんなん	ジャスダックス	15:00	
	3999	ナレッジスイート	マザーズ	15:00	7707	PSS	マザーズ	16:00	
4235	UFHD	ジャスダックス	15:00	7776	セルシード(08/22)	ジャスダックG	16:00		
4301	アミューズ	東証1部	15:00	7779	サイバダイン	マザーズ	15:00		
4399	くふうC	マザーズ	16:00	7781	平山HD(08/28)	ジャスダックス	15:00		
4421	DIシステム	ジャスダックス	15:00	7782	シンシア	東証1部	15:00		
4423	アルテリア	東証1部		7806	MTG	マザーズ	15:00		
4435	カオナビ	マザーズ	16:00	8072	出版貿	ジャスダックス	15:00		
4597	ソレイジア	マザーズ	15:00	8202	ラオックス	東証2部	15:00		
4598	DELTA-P	マザーズ	15:00	8358	スルガ銀	東証1部	15:00		
4653	ダイオーズ	東証1部	15:00	8704	トレイダーズ	ジャスダックス	15:00		
4754	トスネット	ジャスダックス	15:00	8737	あかつき本社	東証2部	15:00		
4766	ピーエイ	東証2部		8836	RISE	ジャスダックス	15:00		
4845	スカラ(08/19)	東証1部		8955	日本ブラR	東証REIT	15:00		

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
8月14日	9082	大和自	東証2部	15:00					
	9271	和心(08/29)	マザーズ						
	9318	アジア開発	東証2部	15:00					
	9360	鈴与シンワ	東証2部	16:00					
	9419	ワイヤレスG(08/15)	東証1部						
	9435	光通信	東証1部	12:00					
8月15日	3227	MidCity(08/16)	東証REIT	15:00					
	3473	さくら総	東証REIT	15:00					
	8951	日本ビルF	東証REIT	15:00					
	8964	フロンティア	東証REIT	16:00					
8月16日	2385	総医研	マザーズ	15:00					

## 格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
8月5日	CS	9697	カプコン	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	2300→3000
	岡三	2651	ローソン	中立→強気格上げ	5000→6000
	大和	7205	日野自	3→2格上げ	1150→1100
8月6日	岡三	8174	日ガス	中立→強気格上げ	2940→3500
8月7日	ゴールドマン	7936	アシックス	中立→買い格上げ	1450→1700
	東海東京	6697	テックポイント	OUTPERFORM新規	1150
8月8日	モルガン	4661	OLC	UNDERWEIGHT→EQUALWEIGHT格上げ	8100→15100
	岡三	4739	CTC	中立→強気格上げ	2800→3300
	三菱	6832	アオイ電子	HOLD→BUY格上げ	-
	東海東京	6505	東洋電	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	1600→1900
8月9日	SMBC日興	4062	イビデン	3→2格上げ	1300→2100
	いちよし	9830	Tナカヤマ	B→A格上げ	3000→3200
	ゴールドマン	9509	北海電	中立→買い格上げ	750→700
	岡三	9602	東宝	中立→強気格上げ	5000

## 格下げ・売り推奨

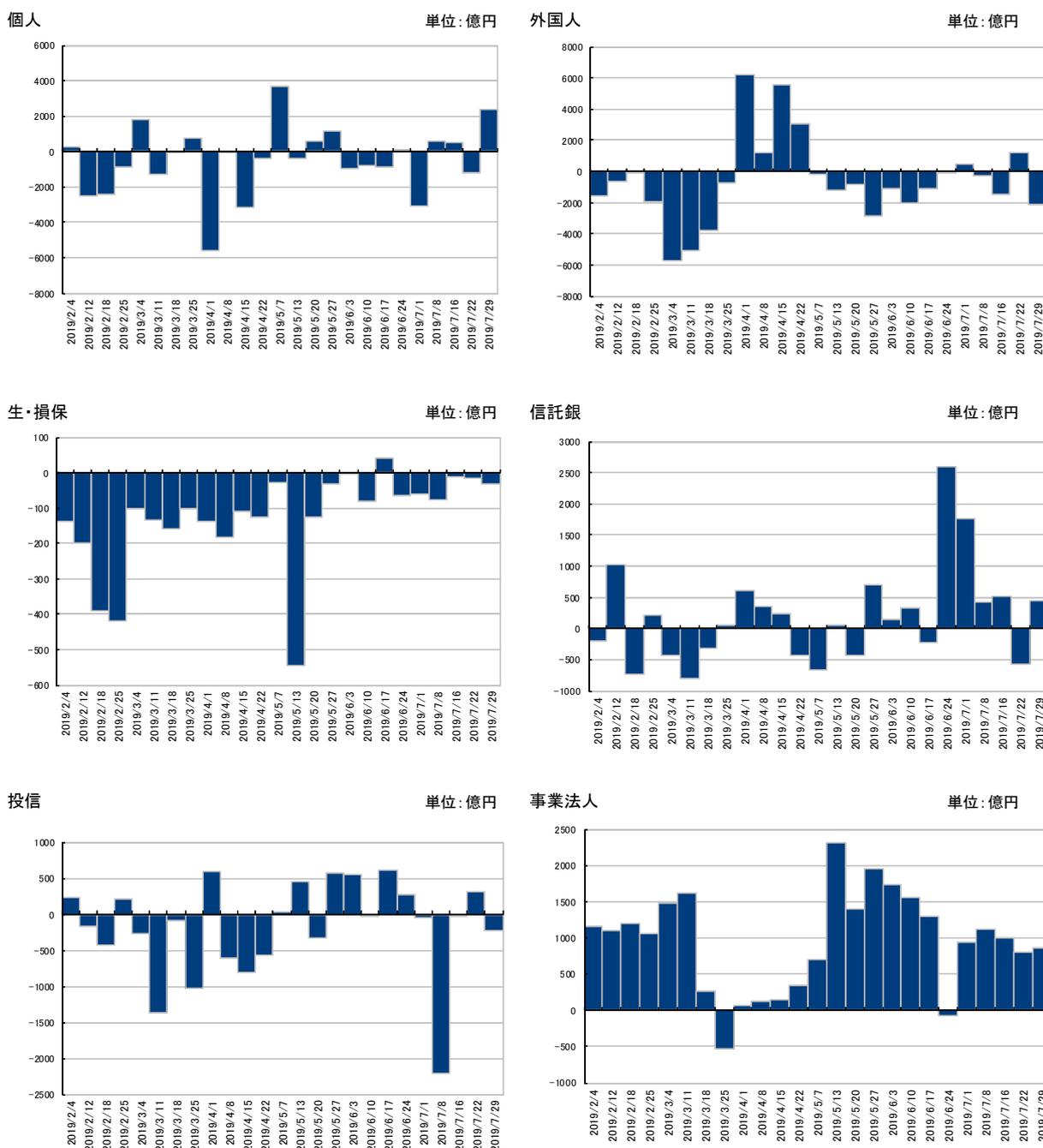
※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
8月5日	いちよし	6222	島精機	B→C格下げ	3100→2000
	ゴールドマン	3197	すかいらーく	中立→売り格下げ	1580
8月6日	JPモルガン	6586	マキタ	OVERWEIGHT→NEUTRAL格下げ	3500
	いちよし	6875	メガチップス	B→C格下げ	1300
	岡三	7947	エフピコ	強気→中立格下げ	7500
	大和	3569	セーレン	2→3格下げ	1600→1300
8月7日	JPモルガン	7012	川重	OVERWEIGHT→NEUTRAL格下げ	4300→2500
	いちよし	2469	ヒビノ	A→B格下げ	2700
	岡三	7231	トピー	強気→中立格下げ	3000→1970
	東海東京	2327	日鉄SOL	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	3700→3800
8月8日	ゴールドマン	7942	JSP	中立→売り格下げ	2200→1650

## 7月第5週:外国人投資家は総合で売り越しに転じる

7月第5週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で4342億円と売り越しに転じ、現物についても同様に売り越しに転じた。一方、個人投資家は総合で3076億円と買い越しに転じた。

そのほか、都地銀は154億円と売り越しに転じ、投信は1051億円、生・損保は77億円と売り越しを継続。一方、信託は144億円と買い越しに転じ、事法は933億円と買い越し継続になった。他方、自己は、現物売り、225先物、TOPIX先物買いで1065億円と買い越しに転じた。なお、この週の裁定残は、ネットベースで1747.68億円減の6770.07億円の売り越しとなった。週間の騰落率は日経平均で2.64%の下落だった。



単位:億円

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	19/04/15	▲1,305	▲3,117	5,534	▲807	139	▲110	▲66	240
19/04/22	▲1,962	▲419	3,079	▲561	346	▲127	▲64	▲437	
19/05/07	▲4,595	3,690	▲191	40	705	▲28	13	▲659	
19/05/13	▲1,367	▲398	▲1,174	441	2,307	▲545	▲14	56	
19/05/20	▲579	585	▲799	▲323	1,404	▲125	▲122	▲424	
19/05/27	▲1,156	1,123	▲2,838	563	1,947	▲32	▲64	692	
19/06/03	▲18	▲972	▲1,143	542	1,726	▲3	▲204	153	
19/06/10	733	▲757	▲1,992	▲23	1,547	▲79	▲75	328	
19/06/17	98	▲891	▲1,126	613	1,294	41	▲47	▲235	
19/06/24	▲3,484	16	▲6	271	▲78	▲65	41	2,587	
19/07/01	223	▲3,073	449	▲40	942	▲62	▲105	1,772	
19/07/08	▲36	551	▲238	▲2,201	1,112	▲77	36	420	
19/07/16	▲817	501	▲1,444	▲30	1,005	▲11	▲24	521	
19/07/22	▲916	▲1,184	1,203	315	792	▲15	▲16	▲578	
19/07/29	▲1,692	2,369	▲2,092	▲228	866	▲33	52	456	

単位:億円

T O P I X 先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	19/04/15	▲269	133	1,085	▲800	2	▲55	0	▲27
19/04/22	1,260	▲29	25	99	3	▲120	▲0	▲1,155	
19/05/07	3,065	30	▲2,451	▲548	▲3	▲29	▲45	▲24	
19/05/13	673	137	▲820	▲2	▲1	87	22	▲98	
19/05/20	1,685	▲102	▲1,644	25	▲1	55	20	▲31	
19/05/27	1,783	87	▲1,209	▲89	1	▲9	▲12	▲521	
19/06/03	▲721	▲32	1,122	▲285	6	▲91	37	▲90	
19/06/10	71	▲94	▲117	335	▲0	148	▲15	▲311	
19/06/17	▲284	▲1	445	▲267	3	▲0	▲38	53	
19/06/24	3,391	▲31	▲1,532	173	▲1	▲13	31	▲1,944	
19/07/01	▲77	▲10	794	432	0	▲10	▲110	▲1,026	
19/07/08	352	205	1,012	▲1,007	1	50	▲9	▲673	
19/07/16	604	▲80	523	▲7	▲1	▲3	35	▲1,040	
19/07/22	905	▲4	▲370	▲366	1	▲10	▲14	▲191	
19/07/29	2,452	5	▲2,201	▲9	▲1	▲50	6	▲136	

単位:億円

日 経 平 均 先 物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	19/04/15	781	61	1,160	▲1,919	7	▲5	62	▲223
19/04/22	1,772	157	▲1,563	▲720	▲4	9	6	281	
19/05/07	2,048	839	▲3,928	1,588	86	0	▲943	145	
19/05/13	988	54	▲2,207	430	▲18	103	594	180	
19/05/20	1,205	▲166	▲1,932	419	39	0	217	▲28	
19/05/27	1,793	558	▲1,110	▲111	▲13	▲302	▲730	▲243	
19/06/03	1,104	▲830	▲1,517	655	▲81	▲251	547	714	
19/06/10	415	▲187	358	▲645	19	5	8	84	
19/06/17	299	34	64	▲812	▲4	0	282	106	
19/06/24	241	▲53	276	▲359	9	▲51	▲30	27	
19/07/01	202	▲169	824	160	▲18	▲10	▲483	▲538	
19/07/08	551	295	960	▲1,595	▲6	▲5	361	▲543	
19/07/16	74	107	405	708	51	11	▲1,058	▲73	
19/07/22	▲1,688	▲199	1,943	▲1,463	▲31	▲10	898	287	
19/07/29	305	702	▲49	▲814	68	6	▲212	▲176	

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。  
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	8/9終値 (円)
ステムリム	4599	東M	8/9	1,000~1,700	8,100,000	1,560,000	1,000	-	SMBC日興	951
事業内容:	生体内に存在する幹細胞を活性化し、損傷組織の再生を誘導する医薬品・医療機器及び遺伝子治療等製品の研究、開発、製造、販売									
ピー・ビーシステムズ	4447	福Q	9/12	-	150,000	60,000	-	-	エイチ・エス	-
事業内容:	企業の基幹システムをクラウド化する「セキュアクラウドシステム事業」、VRシアター4D 王の製造販売を行う「エモーショナルシステム事業」									

## 雲上抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1865	青木あす	1208	948	968.5	1967	ヤマト	660	551.5	659.5
2196	エスクリ	780	602.25	749	2930	北の達人	740	466	710
3139	ラクトJPN	3745	3607.5	3005	3655	ブレインパッド	6530	6106.25	5317
3667	enish	855	570	796	4551	鳥居薬	2612	2422.25	2557.5
6028	テクノプロHD	5970	5495	5792.5	6036	キーパー技研	1236	1024.5	1207
6183	ベルシス24	1613	1426.5	1582.5	6197	ソラスト	1238	1198.25	1162.5
6235	オプラン	3065	2119.25	2997	6363	西島製	1030	978.75	1001
6485	前沢給装	1982	1903	1963.5	6715	ナカヨ	1704	1439.75	1684
6744	能美防災	2280	2025.25	2214	6748	星和電機	530	407.5	525.5
6755	富士通ゼ	1727	1536.5	1678.5	6758	ソニー	5973	5597	5838.5
6809	TOA	1237	1102.75	1220	7725	インターアク	2120	2025	1725.5
8160	木曾路	2636	2471.5	2610	8584	ジャックス	2269	1937.5	2131
8715	アニコムHD	4405	3298.75	3737.5	8842	楽天地	5230	4788.75	5207.5
9006	京急	1926	1798.75	1854	9007	小田急	2504	2438.75	2415
9037	ハマキョウ	3820	3786.25	3648	9358	宇徳	509	505	505
9715	トランスコスモス	2597	2413.25	2542	9726	KNTCT	1510	1211	1451
9850	グルメ杵屋	1172	1098.25	1159.5	9882	イエローハット	1499	1336.75	1449
9887	松屋フーズ	3765	3606.25	3665					

## 雲下抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1332	日水	617	661.75	629.5	1881	NIPPO	1907	1990	2231
1926	ライトエ	1330	1452.75	1355.5	2433	博報堂DY	1654	1670.25	1719.5
2533	オエノンHD	365	368.25	421	2599	ジャパンF	1194	1210.25	1337.5
2812	焼津水化	1042	1043.5	1139	2915	ケンコーマヨ	2104	2236.25	3153.5
3002	グンゼ	4395	4607.5	5675	3180	Bガレジ	1738	1806.5	2321
3231	野村不HD	2080	2129.25	2362	3289	東急不HD	604	608	689.5
3513	イチカワ	1385	1461.75	1598	3544	サツドラホールディン	1805	1807.5	2035.5
3659	ネクソン	1257	1452.75	1539.5	3688	カルタHD	1022	1183.25	1327
3765	ガンホー	2345	2585	2955	3788	GMOクラ	2626	3430	3250
3853	アステリア	801	849.5	1025	3864	三菱紙	532	544	577
3925	Dスタンダード	4040	4096.25	4503.5	4321	ケネディクス	521	548.25	577
4337	びあ	4195	4457.5	5197.5	4346	ネクシィーズG	1678	1844	1875.5
4403	日油	3330	3557.5	3428	4461	第一工業	2904	2928.25	3508.5
4514	あすか薬	1078	1236.5	1587	4534	持田薬	4315	4713.75	4417.5
4689	ヤフー	289	312	397	4726	ソフトバンテク	2140	2158	2376.5
4849	エン・ジャパン	3870	4141.25	4947.5	4922	コーセー	16840	16907.5	20080
5337	ダントーHD	112	114.75	122.5	5344	MARUWA	5920	6305	7465
5388	クニミネエ	868	886.5	966	5970	ジーテクト	1444	1530	1928
6005	三浦工	2747	2799.25	2983	6055	Jマテリアル	1180	1206	1393
6143	ソディック	789	794.25	1071	6175	ネットマーケ	538	546.5	752.5
6196	ストライク	2492	2523.75	3151	6203	豊和工	750	786.75	1181.5
6238	フリュー	941	980.5	985.5	6258	平田機工	5950	6070	7607.5
6272	レオン自機	1574	1603.5	1852.5	6289	技研製作所	3090	3386.25	3113
6293	日精樹脂	940	956.25	1283	6315	TOWA	716	733.5	1122.5
6345	アイチ	610	622	655.5	6379	レイズネク	1069	1138.75	1099
6383	ダイフク	4925	5211.25	5785	6448	ブラザー	1804	1876	2133
6479	ミネベア	1597	1727.5	1980	6481	THK	2322	2411.5	3378
6503	三菱電	1307.5	1328.75	1516.5	6517	デンヨー	1474	1517	1624.5
6539	MS-Japan	1598	1674	1818	6547	グリーンズ	1318	1417.5	1561
6619	WSCOPE	1070	1094.75	1356	6850	チノー	1250	1316.75	1491
6869	シスメックス	6448	6522	7960	6871	マイクロナクス	761	796.25	999
6905	コーセル	1031	1048.25	1257	6954	ファナック	17925	18270	21880
6965	浜松ホトニク	3730	3843.75	4230	6976	太陽誘電	2046	2087.25	2551
6989	北電工業	966	997	1307.5	7004	日立造	354	371	452
7011	三菱重	4070	4101.5	4142	7196	Casa	1115	1154.25	1115.5
7459	メディパル	2265	2405.75	2348.5	7199	プレミアグループ	1911	1948	1978.5
7482	シモジマ	1024	1063.5	1073.5	7481	尾家産業	1183	1262	1323.5
7867	タカラトミー	1059	1211	1149	7513	コジマ	465	527.5	467
7981	タカラスタン	1659	1683.5	1745	7911	凸版印	1666	1693.5	1722
8091	ニチモウ	1701	1740	1735.5	8043	スターゼン	3870	3961.25	5027.5
8303	新生銀	1435	1466	1559	8260	井筒屋	215	216	294.5
8521	長野銀	1620	1627.75	1704	8364	清水銀	1692	1725	2399
8850	スターツ	2262	2436.5	2646.5	8708	アイザワ証	671	686.5	697.5
9265	ヤマシタヘルスケア	1213	1233.75	1378	9099	C&FロジHD	1231	1259	1360
9624	長大	754	773.25	809	9385	ショーエイコー	768	853.75	792.5
9930	北沢産業	241	247	314	9749	富士ソフト	4500	4617.5	4675

## 【ご投資にあたって】

本レポート記載の内容に従ってお取引される場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式(売買単位未満を除く)の場合は約定代金に対して最大1.134%(税込み)(ただし、約定代金の1.134%に相当する額が2,700円(税込み)に満たない場合は2,700円(税込み))の委託手数料をご負担いただきます。

また、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者の信用状況(財務・経営状況含む)の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じる恐れ(元本欠損リスク)があります。

なお、信用取引などを行う場合は、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。なお、商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。

## 【免責事項】

- 本資料は株式会社フィスコ(以下「フィスコ社」という)独自の調査・判断に基づくものであり、ひろぎん証券株式会社による投資情報ではありません。そのためひろぎん証券は本資料の正確性、完全性について一切の責任を負うものではなく、また、本資料の情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負いません。
- フィスコ社が提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。また、掲載される情報はフィスコ社が信頼できると判断した情報源をもとに作成したものです。その内容及び情報の正確性、完全性または適時性について、フィスコ社は保証を行なっており、また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本文、データなどに関しましては、著作権法などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。
- 金融商品(投資信託・外貨預金・公共債等)は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、金融商品をお申込の際は、当該商品等の契約締結前交付書面もしくは投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

私たちはお役に立つ情報提供を常に考え、行動しています。



# ひろぎん証券

商号等: ひろぎん証券株式会社

金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号

加入協会: 日本証券業協会

本社 〒730-0032 広島市中区立町2-30 電話: 082-245-5000(代)

<http://www.hirogin-sec.co.jp>

本店営業部	〒730-0032 広島市中区立町2-30	TEL:082-245-5000	可部支店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
ゆめタウン 広島営業所	〒734-0007 広島市南区皆実町2-8-17 ゆめタウン広島内	TEL:082-252-8415	五日市支店	〒731-5127 広島市佐伯区五日市7-4-33	TEL:082-922-0161
福山支店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和町2-7	TEL:082-422-3621
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
府中支店	〒726-0004 府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500	岩国支店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
尾道支店	〒722-0035 尾道市土堂2-7-11	TEL:0848-23-8121	徳山支店	〒745-0015 周南市平和通2-33	TEL:0834-31-5350
因島支店	〒722-2323 尾道市因島土生町塩浜1894-10	TEL:0845-22-2291	防府支店	〒747-0801 防府市駅南町4-1	TEL:0835-22-2871
竹原支店	〒725-0026 竹原市中央1-5-3	TEL:0846-22-2295	宇部支店	〒755-0031 宇部市常盤町1-6-32	TEL:0836-31-1105
三原営業所	〒723-0014 三原市城町1-25-1	TEL:0848-67-6681	萩支店	〒758-0027 萩市吉田町64-2	TEL:0838-25-2121
呉支店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401	東京支店	〒104-0031 中央区区橋2-7-19 6F	TEL:03-6228-7251
三次支店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121	今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280

ネットセンター(インターネット取引) <http://www.hirogin-sec.co.jp>

コールセンター(コール取引) フリーアクセス:0120-506-084

資料作成: 株式会社フィスコ



■お問合せ

〒107-0062 東京都港区南青山5-11-9

株式会社フィスコ

電話: 03-5774-2443(情報配信部)